

ほっかいどうの社会保障

2021年6月15日 北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

生活費や営業問題などで、75人の道民から相談 コロナ災害を乗り越える いのちと暮らしを守るなんでも電話相談会

6月12日、全国で「コロナ災害を乗り越える いのちと暮らしを守るなんでも電話相談会」（第8弾）が行われ、75人の道民から相談が寄せられました。

当日が、地元テレビ・ラジオ局3社が取材し、ニュースで告知してくれました。

札幌会場は、雇用・暮らし・SOSネットワーク北海道と反貧困ネット北海道の共催で、10時から19時まで行い、16人の専門家が相談に応じました。3台の電話がふさがれることも多く、道民の相談は、青森県会場や岩手県会場でも応じました。



【相談の特徴】

【件数】

札幌会場 49件（北海道 46件）＋青森・岩手会場（北海道 29件） 北海道小計：75件

【相談地域】

札幌市 34件、旭川市 5件、函館市 5件、小樽市 4件、帯広市 2件、岩見沢市・北広島市・留萌市・苫小牧市・紋別市・釧路市・オホーツク・宗谷・安平町各 1件 青森県 3件

【相談者の年齢】

20代 1人・30代 2人・40代 9人・50代 6人・60代 23人・70代以上 15人

【相談者の性別】

女性 32人・男性 46人

【主な内容】

生活費問題 50件（給付金など 32件・生活保護 16件）・事業問題 11件・労働問題 4件・債務問題 1件・住宅問題 1件・その他 14件

所持金 50 円の方や泣きながら相談する人も

「仕事がなく、アパートの家賃が払えず、電気、ガス、水道停止。50円しかありません」

「昨年6月夫が亡くなり、一人で経営していた飲食店をコロナで休業。緊急小口資金を借り、就職先を探したがなく、今は収入がまったくありません」と、泣きながら相談する62歳女性。

「収入大変で、自殺も考えたが、怖いからやめた」

新型コロナウイルス感染症の影響が長引き、政府のコロナ対策が縮小・廃止、複雑化し、住民の暮らしや中小企業の経営状態が深刻になっています。

生活費の相談が多く、「緊急小口資金」「総合支援資金やその延長貸付や再貸付」（最大9ヵ月）や新設予定の「新型コロナウイルス感染症生活困窮自立支援金（仮称）」、生活保護の問い合わせが寄せられました。一方、中小業者から、休業や減収による経営難、生活苦の相談が寄せられ、月次支援金など問い合わせも相次ぎました。

「ダブルワークで体調不良」「食費切り詰めている」 広がる貧困 相談事例から

●シングルマザーで、療養手帳を持つ小学5年生と自立支援を受けている小学2年生の子と3人暮らし。ダブルワークしていたが体に限界を感じる。本人は障害年金を受給。生活保護も考えたが車を保有（子どもをデイサービス必要）と姉が公務員ため、躊躇している。

●収入は年金だけで月12万7500円。病院代や通院の交通費など多額になっている。食事も切り詰めている。生活保護利用したいと市にいったら、役所の方が来て『無理ですね』と言われた。

特別貸付・給付の主な内容

◆コロナの影響で減収世帯

「緊急小口資金」（2人以上の場合：月20万円×1ヵ月）
「総合支援資金」（2人以上の場合：月20万円×3ヵ月）
延長貸付（2人以上の場合：月20万円×3ヵ月）
再貸付（2人以上の場合：月20万円×3ヵ月）

*申請期間 2021年8月末まで延期

◆緊急小口資金の特別貸付を利用できない世帯

「新型コロナウイルス感染症生活困窮自立支援金」
（単身世帯 月6万円×3ヵ月）
（2人世帯 月8万円×3ヵ月）
（3人以上世帯 月10万円×3ヵ月）

*申請期間 2021年8月末まで

専用相談コールセンター 0120-46-8030
受付時間 9:00~17:00（平日のみ）